2023. 3. 1

Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信(No.125)

国際化実践小委員会と英国分会の意見交換会

－英国から見た国際化実践に向けた課題－

2023 年 1 月 18 日に土木技術者の国際化実践小委員会と土木学会英国分会で意見交換会を行った。意見交換会では、土木学会英国分会より日本と英国の土木業界の違い（国際センター通信(No.121)「日本と英国の土木業界の違い」参照※）について紹介を受けたのち、英国の土木業界での業務従事経験を持つ英国分会の新旧メンバーの実体験から日本との勤務環境のギャップ、日本人技術者の英語問題、グローバル化に向けた課題、トップマネジメントに求められるスキルなどの幅広い話題について意見交換を行った。日本の土木業務従事者に有益な内容も含まれていると思われるため、以下に報告する。

勤務環境のギャップとしては、日英で異なる仕事のやり方や多様性への寛容さ等が挙げられた。異なる国籍や人種の従業員の割合が多い英国の土木業界や英語を公用語化している欧州のグローバル企業と比較して、日本企業では言語面や文化面の不寛容さがダイバーシティやグローバル人材の確保を推進するうえでの課題となっている可能性が指摘された。

ロンドンブリッジ

日本人技術者の英語問題としては、グローバルに仕事を行う上で日本人の英語能力の低さが業務における生産性の低さにつながっている現状が紹介された。日本では一部大学の土木系学科において英語教育に取り組まれているものの、必ずしも土木技術者の海外展開に繋がっておらず、グローバルに業務を遂行できるレベルの英語能力の獲得に向けては国をあげての早期からの英語教育や大学の学部時代からの海外留学等の必要性が指摘された。

グローバル化に向けた課題としては、例として 2050 年のカーボンニュートラルの実現に向けて欧米では土木学会の貢献が盛んに議論されているのに対して、日本ではトレンドへの対応に遅れがみられる点が指摘された。言語の問題でグローバルな情報へのアクセスが難しいことが、もとよりクローズドでドメスティックな土木業界において国際社会の潮流に乗り遅れることやガラパゴス化が進むことに拍車をかけかねない点は大きな課題といえる。

トップマネジメントに求められるスキルとしては、一技術者から管理職へとキャリアアップしていく過程で得られるスキルとは異なる「プロジェクトマネジメントスキル」の重要性が挙げられた。今後日本企業がグローバルビジネスへの進出を進めていくうえでマネジメントストラクチャやマネ

ジメントスキルの強化は必須であり、それらを競争の中で実践的に身につけていくことこそが真のグローバル化への第一歩である点が指摘された。

本小委員会では、今回話題提供のあった内容について、今後もテーマを絞りながら意見交換会を継続する予定である。

※国際センター通信 No.121: https://committees.jsce.or.jp/kokusai/system/files/IAC_News_No.121%28Jp%29rev.pdf

フィッシュアンドチップス

ウェストミンスター寺院

【記：土木グローバル化総合委員会 土木技術者の国際化実践小委員会】

-Student Voice No.12-

経験は最高の教師

Azam Amir
（芝浦工業大学 大学院
理工学研究科
地域環境システム専攻
博士課程３年）

こんにちは。パキスタンから来た Azam Amir です。構造工学の修士号を持つ土木技術者です。世界的に有名な大学で土木工学の博士号を取得するのが私の昔からの夢でした。もっと学びたいという気持ちが通じて、国際協力機構（JICA）パキスタン事務所から、東京の芝浦工業大学（SIT）に入学する道が開けました。今は博士課程の奨学生として、マイケル・ヘンリー准教授の指導を受けながら「社会基盤マネジメント研究室」で研究を行っています。2020 年 9 月に、SIT における JICA の「道路アセットマネジメント」奨学金プログラムに選ばれましたが、コロナの制限で物理的に大学に行けませんでした。それでも、教授が私の研究を助けてくださり、オンラインで研究室に参加できるようしてくれたため、母国にいた私は大いに助かりました。コロナの規制が緩和された、2021 年 9 月に東京に到着しました。大学の学生課が、役所での書類作成から宿舎の提供、また家族を呼び寄せる手続きのサポートなど、あらゆる面で面倒を見てくれました。

マイケル・ヘンリー研究室

日本に来てから、経験も知識も極めて豊富なマイケル・ヘンリー准教授の指導のもとで素晴らしい経験を重ねています。教授は、土木工学の分野において多種多彩な経験を持つことで名高いのです。マイケル先生は現在 11 名の留学生を指導しており、経験を生かして、留学生全員に非常に良い研究環境を提供してくれています。先生は学生の研究指導に個人的にも強い関心を持っており、学生の心身の健康にも気を配ってくれます。また、研究室には各自の研究を行うための十分な設備が整っています。

日本、特に東京は多くの機会にあふれ、世界中の人々と出会い、知り合えるチャンスをくれる真の多文化都市です。この都市には科学的、文化的な魅力がたくさんあり、私も家族も生まれて初めての体験をしています。日本の社会は、私の出身地とは大きく異なりますが、多様な文化を持つ人々を受け入れる寛容さがあり、すぐに疎外感を感じてしまうようなことはありません。私は家族と一緒に暮らしており、最近は娘を地元の学校に入学させました。学校のシステムがパキスタンとは大きく異なることに驚きましたが、先生方の優しい配慮により、子供は新しい環境によく馴染んでいます。

土木工学のバックグラウンドを持つ私が感銘を受けたのは、日本が第二次世界大戦後さまざまな分野で大きな進歩を遂げ、欧米諸国に匹敵する高い基準を打ち立ててきたことです。東京をはじめとする日本の都市の都市インフラの品質、設計、水準は素晴らしく、技術者なら誰でも息をのんでしまいます。東京の都市交通システムや新幹線は、いずれも第二次世界大戦後に開始されたプロジェクトです。技術者たちが、人々を満足させるプロジェクトを遂行し、ほぼ半世紀にわたり試練を乗り越えてきた取り組みの一例と言えるでしょう。東京に建設された巨大建造物には感動しました。地震が多い都市ですが、日本の技術者は優れた耐震基準を開発し、将来起こるかもしれない地震に耐えうる巨大建造物を可能にしたのです。このことが、日本で土木工学の博士号を取得するという私の決意をより強固にしています。博士号の取得が人生で最高の経験になると 100%確信していますし、この経験を今後有効に生かしたいです。

埼玉での JICA 道路アセットマネジメント研修

日本は日々の生活のほぼすべての面で発展してきましたが、それでも日本社会は独自の文化を保ち、それを誇りにしています。社会は極めて規律正しく、労働倫理も非常に高く、他の国々とは一線を画しています。日本には、多くの公園、並木のある銀座通りのショッピング街、日本の歴史を伝える博物館、日本食、スポーツ施設など、観光客にとって魅力的なものもたくさんあります。安全、安心、そして日本の人々のホスピタリティと相まって、他の国の首都とは一味違う素晴らしい体験ができるのです。日本の社会は、ベートーベンやモーツァルトの交響曲、ラヴィ・シャンカールの音楽、もしくは、感じるけれど言葉にできない朝の風のようだなと思います。

バドミントンチーム（東京国際交流館の友人たちと）

【記: Azam Amir（芝浦工業大学 大学院 理工学研究科）】

お知らせ

【今後の予定】

◆2022 JSCE Annual Meeting IAC Discussion Follow-up Seminar online

https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/320

◆第 3 回 日台技術者座談会「台湾建設事情－こんなに違う日本と台湾」(3 月 16 日開催)

https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/327

◆令和 4 年度 土木学会 会長室
https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml

・「多門に多聞＆多問」＊上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。
https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」新規プロジェクト 2 件掲載
http://www.jsce.or.jp/e/archive/

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)
http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2023

◆【情報収集を開始】トルコ・シリア発生の地震（地震工学委員会 地震被害調査小委員会）
https://committees.jsce.or.jp/eec205/

◆5th JSCE Concrete Committee Webinar "Frontiers of Concrete Technology" (4 月 13 日開催)
https://www.jsce-int.org/node/814

◆【募集】Future Leader Forum 新規メンバー
https://committees.jsce.or.jp/acecc/node/50

◆2022 年度インフラメンテナンス賞
https://inframaintenance.jsce.or.jp/hyousyou/announcement2/

◆D＆I カフェトーク ―身近にあります。多様な働き方や生き方。そんなお話きいてみます。―
https://committees.jsce.or.jp/diversity/node/82

◆第 189 回論説(2023 年 2 月版) オピニオン
(1) 環境に配慮した気候変動の新たな緩和策に向けて
https://note.com/jsce/n/ne9aa14f68d24
(2) IT ツールの活用が求められる建設コンサルタントの人材育成
https://note.com/jsce/n/ne9aa14f68d24

◆土木学会誌 2023 年 3 月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)
http://www.jsce-int.org/pub/magazine

◆JICA グローバル・アジェンダ 開発途上国の課題に取り組む 20 の事業構想
https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/overview/publications/global_agenda_20.html

◆Breakwaters 2023
https://www.ice.org.uk/events/conferences/breakwaters-2023/

◆The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023)
https://tisdic2023.dut.udn.vn/

◆仙台防災未来フォーラム 2023
https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2023/

◆IABSE Symposium Istanbul 2023
https://iabse.org/Istanbul2023

◆ASCE 2023 CONVENTION, CHICAGO (10 月 18-21 日)
https://convention.asce.org/

◆KSCE 2023 CONVENTION (10 月 18-20 日)
https://eng.ksce.or.kr/activities/act01.asp?idx=60&page=1&sfield=&gtxt=&byy=&gbns=1&ctop=MN0335&htop=MN0323&ptop=MN0323&smm=&btype=&bgbn=R

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム
・日本語版:（http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31）
・英 語 版:（http://www.jsce-int.org/node/150）

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
（https://www.facebook.com/JSCE.en）

【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。